



79号 令和5年12月14日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



どんな未来が来ようとも…

東大教授が座談会で語り合ったセンセーショナルな「未来予測」のいくつかをご紹介します。

- 老化を防げるようになり、1,000歳まで生きれるようになる？
- 「無線給電」により、スマホの充電が不要になる？
- 自動運転の車に住んで移動し、そもそも土地も買わなくて済むようになる？
- 地上発 宇宙行きのエレベーターができる？
- 「人工冬眠」で宇宙の果てまで行ける？

いずれも研究者が本気で研究し続けていることなのだそうです。（瀧口友里奈編『東大教授が語り合う10の未来予測』大和書房による）

本当にそんな未来がやってくるのでしょうか？来るかもしれません。江戸時代までは「くるま」の「く」の字もなかったことを考えれば…。

しかし、それもこれも、地球という星がずっと無事だったということが大前提になります。避けようのない運命は別として、今を生きる我々のすべきことは何なのでしょう？

ちっぽけな私には大それたことはできません。えらそうなことも言えません。しかし、心がけたいと思うことはあります。

それは、自分は（ヒトは）自然の中の一員にすぎないということ。自然の中に生かされているということ。自分に都合のいいように地球を（まわりを）変えようとしてはいけないこと。どんなに強がっても自分一人で生きていくなど到底できないこと…を自覚すること。

その自覚のもと、常に今ここに自分の命があることに感謝の気持ちを忘れず、謙虚に、その命を精一杯生きようとする事。

なかなかできることではなく、日々反省の連続ですが、それが、未来の豊かな地球にもつながる。そんな気持ちを「未来予測」の本を読みながら、改めて強くしたところです。

教え合う阿賀っ子（算数の授業）



助け合う阿賀っ子（家庭科の授業）

